

予防的治療で炎症を抑え、 ぜんそく発作を防ぐことが治療の基本

以前は、ぜんそくの治療といえば、主に発作を止める治療を指していました。しかし近年、

発作が起こる根底に気道の慢性的な炎症があることが明らかに、現在では、この慢性的な炎症を抑える薬物治療を積極的に行って、発作を予防することに治療の重点が置かれています。こうした予防的治療で発作が起こりにくくなるため、患者さんは毎日の管理で病気をコントロールすることが可能になっています。

●慢性的な炎症を抑えるために 長期間使う薬（長期管理薬）

慢性的な炎症を抑えるために毎日使う標準薬は、吸入ステロイド薬です。大人にも子どもにも使われます。吸入ステロイド薬には、粉末状の「パウダー式」と、霧状の「スプレー式」の二つのタイプがあり、いずれも薬を口から吸入して気道に行き渡らせます。これによって薬が気道粘膜に沈着し慢性的な炎症を

鎮めます。1回に吸入する薬の量や1日の吸入回数は、発作の程度や頻度によって異なりますが、だいたい1週間〜10日ほど吸入を続けると、せきが少なくなるなどの効果を実感できます。効果が感じられない場合は、正しく吸入できていない可能性もあるので、担当医に吸入しているところを見てもらい、指導を受けましょう。

吸入ステロイド薬の場合、飲み薬や注射薬のステロイドに比べ、薬の量が約1000分の1程度で済むことから副作用は少ないといえますが、もし心配な症状が表れたら担当医に相談してください。

発作の程度や頻度によっては、吸入ステロイド薬に、「長時間作用性 β_2 刺激薬」や「徐放性テオフィリン薬」「抗アレルギー薬」などが併用されます。以上の薬は、発作を予防するために長期間使う薬です。主な症状がせきだけ（せきぜんそく）



で軽い場合には、これらを2〜3カ月間続けただけで使をやめて様子を見ることもできますが、やめる際には必ず担当医と相談することが前提です。

●発作が起こったときに使う 「発作治療薬」

毎日使う予防薬に加え、発作が起こったときには、発作治療薬である「短時間作用性吸入 β_2 刺激薬」を使います。長時間作用性 β_2 刺激薬に比べ、即効性があり、速やかに気道を広げる働きがあります。

患者さんは、旅行中はもちろ

んのこと、常にこの薬を携帯し、発作が起きたらすぐに吸入します。この吸入薬は発作が起きて時間がたつてから使っても効果がありません。また、2回吸入しても効果が得られない場合は、使用をやめて、すぐに医療機関で治療を受けるようにしてください。連続使用は不整脈など心臓に負担をかけるのでご注意ください。

●薬の効果を確認しながら 治療を続ける

予防薬を処方どおり使っているにもかかわらず、症状が十分改善しなかったり、発作治療薬